小規模多機能型居宅介護「サービス評価」総括表

法人名	社会福祉法人かたばみ会	代表者	佐　藤　淳　司
事業所名	多機能施設かたばみ荘	管理者	佐藤　千代樹

法人・事業所の特徴	事業所は光ヶ丘の高台に位置し、窓からは海岸線も見え、日本海に沈む美しい夕日を眺めることができる。住み慣れた自宅でいつまでも過ごすことができるように、生活リハビリや必要な介護をご家族と一緒に作り上げています。また、重度の要介護状態になっても同法人で運営する特別養護老人ホームかたばみ荘と連携を図り、支援が可能。

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1　人	人	1　人	人	1　人	1　人	人	2　人	人	6　人

項　　目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	事業所で検討し計画された＜次回までの具体的な改善計画9項目＞委員の皆様より頂いた意見から計画した＜地域かかわりシート改善計画6項目＞をワーカー室に掲示する。 職員がいつでも計画の取り組み内容を確認できるようにしていく。	多機能で会議開催し、委員の皆様と外部評価項目について事業所内の確認を行う。 委員の皆様からの評価については、「まん延防止等重点措置」の適用に伴う要請にて文書回覧で行う。 ＜委員の皆様より、未達成改善計画についてのご意見＞ 毎年高い目標を活動計画で立ててしまうと未達成の計画が多くなってしまう。小さな達成感をたくさん得ていくことが仕事への自信に繋がると思います。 毎年、職員全員が活動計画を達成し、次の計画へ進んでいくが理想と思います。事業所全体のスキルアップに繋がる取り組みをこれからも継続して行ってもらいたい。	＜R3年度の事業所自己評価と事業所内確認を行い皆様からのご意見＞ ・事業所自己評価の1項目目（初期支援）について。自己評価チェック項目に「あまりできていない」が1～2名居るが毎年の異動による部分であること確認しました。 ・6項目目（連携・協働）について。チェック項目「ほとんどできていない」7～8名はコロナ禍のため参加できない状況であったと思う。コロナの状況を観ながら今後に期待したい。 ・8項目目（質を向上するための取り組み）について。来年度の改善計画である発表会をぜひ実現して頂き、私も参加して皆さんの発表を聞きたい。 ・今年度初めての外部評価の説明を受けて、皆さんの仕事の大変さを知りました。 ・個人評価と事業所自己評価を確認させていただき、職員の皆さんの声に仕事への責任感を感じました。 活動計画への取り組みに対して「できていない」との自己反省が多かったことは問題意識を持っていると思います。	事業所全体で来年度の改善計画を再確認して、達成可能な9つの改善計画を作成する。
B. 事業所のしつらえ・環境	状況に合わせたコロナ対策を都度確認しながら、利用者、職員が共に過ごしやすい、居心地のいい空間にしていく。環境を一歩でも良くする取り組みを事業所内で考えていく。	コロナウイルス感染対策対応として、新しいテーブル・アクリル板の購入をしソーシャルデイスタンスのテーブル配置になり利用者間で他者との関わりの環境が少なくなってしまった。	・家族や地域の方が、事業所に入りやすい工夫がなされていますか？の項目にて「わからない」と文書での返答が2件ありました。 コロナ禍での感染状況をみながら、玄関先での相談対応や、新規相談者等の場合は健康チェックシート活用しながら相談室の利用をしている。 ・総括表Bの事務所のしつらえ・環境についての今後の改善計画ですが、利用者のニーズ等々も今後大事な事ですが、今はコロナ感染の収束が先決問題です。発症者やクラスターを出さない様にお互いに気を付けていく事が当面の改善計画だと思います。	感染症予防、クラスター予防を行いながら、利用者からのニーズを取り入れ、事業所内で都度相談し具体的な実施を行う。
C. 事業所と地域のかかわり	＜多機能施設かたばみ荘通信＞を作成し配布する。地域の方々や来荘者、サービス事業所等へ通信の配布と説明をしていくことで事業所を知っていただく。	・令和3年度版「多機能施設かたばみ荘通信」を作成し玄関ホールへ来荘者用に準備設置している。都度、かたばみ荘通信を使いながら事業所内の説明に役立てている。 ・コロナ禍の為地域行事やイベントへの参加は少人数での参加となる。（琢成文化展参加）	・県の感染状況を確認しながら少人数での買い物外出支援、文化展への作品出品と参加している。 ・市内の銀行の待合の所にかたばみ荘さんの作品が展示されていてとても細かい作業をされている作品もあり驚きました。すごくきれいでした。 ・連絡ノートでその日の様子を報告してもらい大変ありがたいと思っています。施設で作った作品の外部での展示日程等お知らせがあると嬉しいです。（たまたま荘内銀行に行ったら作品がありました）	令和4年度版「多機能施設かたばみ荘通信」を作成する。来訪者が玄関先からでも手に取りやすい環境整備を行う。
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	利用者全員のエコマップに以前の暮らし方の把握として10個以上を記入する。都度申し送り内でエコマップ確認をすることで自宅での日常生活の支援に繋げていく。	地域との協働の為の改善計画を考える。	・コロナ禍の為地域行事やイベントへの参加は少人数での参加となる。（琢成文化展参加） ・地域包括支援センターからの必要時の情報提供や相談がある。	コロナ禍での感染予防と地域の発生状況を確認しながら、外出の機会を多く持ち活性化した生活支援に繋げる。
E. 運営推進会議を活かした取組み	運営推進会議へのケアワーカーの参加。地域の状況を確認し事業所のできることを考えていく。	コロナ対応により開催場所を特養にする等でケアワーカーの参加ができない状況があった。来年度のケアワーカーの参加を実現していきたい。	・運営推進会議へのケアワーカー参加できていない。 ・地域で心配ある方の事例検討されていない。 ・今まで地域の避難訓練に参加していたが、昨年、今年とコロナ禍の為利用者と一緒の訓練参加ができなかった。法人全体の避難訓練にて地域住民との協働が今年度より行われている。	コロナ禍での運営推進会議へ、ケアワーカーが参加し、事業所内での支援、行事等の細かな説明を行っていく。
F. 事業所の防災・災害対策	一人業務時間帯で落ち着いて災害時の行動ができるように、ケアワーカー全員で訓練に参加する。非常災害マニュアルの確認を行う。	今年度より机上での災害マニュアル訓練を全職員に実施している。	・法人防災計画により年間防災訓練実施している。 ・以前に運営推進委員の参加の避難訓練実施している。昨年、今年と利用者、事業所職員のみでの実施。	定期的な災害マニュアルの確認を全職員対象に行っていく。